

泌尿器科の近況報告



泌尿器科
部長
黒川 覚史

はじめに

2018年に行われた泌尿器科手術のうち、件数の最も多かった3つは、前立腺がん・膀胱がん・腎臓がんの手術でした。これらの手術は、そのほとんどが内視鏡手術です。手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いる内視鏡手術は当院の特色の一つであり、2012年1月に開始してからこれまでに、泌尿器科で約480人の患者さんに行っております。

ダヴィンチ手術とは

最先端の手術支援ロボット「ダヴィンチ」には、4本のアームがあります。4本のうちの1本には、内視鏡を装着します。内視鏡は10倍ズームでハイビジョンかつ3D画像を映し出すことができます。4本のアームの残りの3本には、手術操作をする鉗子を装着します。これは手術執刀医の手や指の代わりです。手ぶれを防止するフィルター機能や指を動かした幅を縮小して伝えるモーションスケール機能がついています。つまり、5:1に設定した場合は、指を5mm動かすと鉗子は1mm動くこととなります。人間以上に緻密な操作も可能になっています。



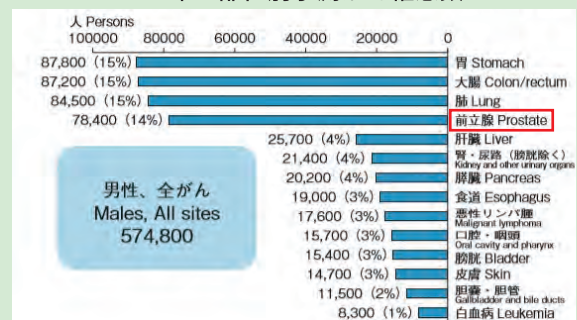
▲手術支援ロボット ダヴィンチXi

前立腺がんについて

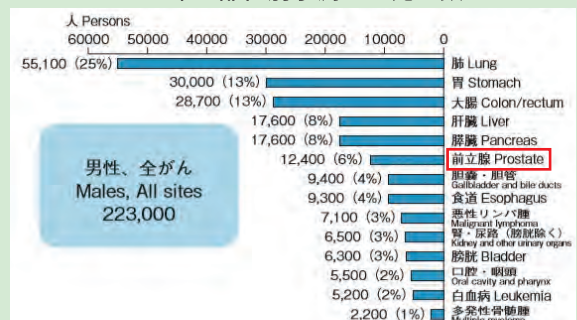
前立腺がんは、数年前まで増加傾向にあり、男性のがん「罹患」数の部位別比較で2015年には、第1位まで上昇しました。その後の2018年には、第4位に低下しましたが、まだ依然として多くの方が罹っていることが分かります。

前立腺がん自体は、ゆっくりと進行することが多く、死に至ることは少ないと思われています。しかし、進行してしまうと骨など他の臓器に転移してしまいます。男性のがん「死亡」数の部位別比較では、肺、胃、大腸、肝臓、膵臓に次いで第6位であり、前立腺がんで死に至る患者さんも意外と多いと感じると思います。やはり、早期に発見し適切な治療を行うことが重要です。

<2018年 部位別予測がん罹患数>



<2018年 部位別予測がん死亡数>



公益財団法人がん研究振興財団の統計による予測推計値